

## 児童発達支援事業所における自己評価結果(公)

討議年月日: 令和 4 年 2 月 28 日

公表: 令和 年 月 日

事業所名 児童発達支援 このき尾張旭校

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8			狭く感じるがあるので、空間の使い方を工夫していく。
	2	職員の配置数は適切である	8		職員配置数は適切である。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5	3		該当児がいないため、バリアフリー化はできていない。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	8		毎日清掃や消毒を徹底している。	今後も徹底していく。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	3		共有と振り返りは定期的に行っているが
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8		毎年評価を行い、ご意見を参考にさせていただいている。	今後も徹底していく。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	1	公開している。	今後も徹底していく。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	4	外部評価は行っていない。	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8		毎月研修に参加している。	今後も参加していく。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	8		必ずモニタリングを行い、それに基づいて作成している。	今後も必ずモニタリングを行う。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	2	標準化されたツールが不十分である。	今後、職員で話し合っていく。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」、「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	8		モニタリングを行い、課題など保護者様と互いに共有している。	今後も継続していく。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	8		児童発達支援計画は全職員必ず確認している。	今後も徹底していく。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	7	1		一部の職員で活動プログラムを決めている。今後は全職員での話し合いをしていく。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8		季節に合わせてプログラムを考えている。	同じような内容でマンネリ化しないようにする。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	7	1		児童発達支援計画への記載は不十分な点もある。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8		打ち合わせ時間を毎日決めて行っている。	今後も徹底していく。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	2		打ち合わせや振り返りができない日がある。より良い支援のため、振り返りの時間を必ずつくっていく。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8		記録を取り共有している。	今後も徹底していく。
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	8		定期的に相談室でモニタリングを行っている。	今後も徹底していく。	

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	2	会議の機会があれば必ず参加している。	会議の機会は少ないが、あれば参加していく。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6	2	連携は十分にできていないと感じる。	今後検討していく。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	3	5		該当児がいない。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	4	4		該当児がいない。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	3	今までは行えていなかった。	情報の共有をしていく。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	3	書類でのやりとりはあった。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	5	市の子ども部会などでの機会はある。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4	4	今まで交流の機会はほとんどなかった。	今後検討していく。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	4	4	コロナウイルスの流行以前の開催時は参加していた。	開催時には必ず参加する。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8		ミーティングを毎月行い課題を議題にしている。	今後も共通理解を持っていく。
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	3	5		家族支援プログラムを行っているわけではない。今後の課題にする。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	1	契約時に相互理解ができるまで確認している。	今後も説明を丁寧に行っていく。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6	2	作成後、対面で説明し同意のサインをいただいている。	今後も徹底していく。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	3	相談があれば必ず対応している。	こちらからの発信は今までなかった。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	5	コロナウイルスの流行以前は2か月に1度行っていた。	コロナウイルスの流行が収束したらまた検討していく。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	8			相談などがあれば、職員用の共有ノートに記載するなどしている。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	2		ホームページのブログが更新できていない。今後は定期的に更新していく。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	8			書庫で個人情報を保管している。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8			それぞれの利用者様に配慮している。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5	3	コロナウイルスの流行以前はイベントを行っていた。	コロナウイルスの流行が収束したらまた検討していく。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	8			マニュアルはあるが、保護者様への周知はできていない。今後の課題とする。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8		毎月各種避難訓練を行っている。	今後も継続していく。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	8		共有し、マニュアルを作成している。	今後も徹底していく。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8		共有し、マニュアルを作成している。	今後も徹底していく。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	1		作成後の共有が足りないので、会議などで共有を徹底する。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8		ミーティングなど毎月行っている。	今後も継続していく。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	8			身体拘束について、児童発達支援計画書に現在記載をすすめている。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。